

研究主題 「生きる力の育成」

～聞くこと・話すこと・交流活動の指導から、伝え合う力の育成～

I 主題設定の理由

これからの「知識基盤社会」の時代において「生きる力」の育成がますます重要になってきており、「基礎的な知識・技能を身につけること」「知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むこと」「学習に取り組む意欲を養うこと」が教育指導の方向性として示されている。また「甲州市『確かな学力』育成プロジェクト」においても、思考力、判断力、表現力の育成をはじめとする学習活動の課題を洗い出し、本市児童生徒の確かな学力の定着・向上を図っている。

このような経緯に沿って、本校では、課題である「伝え合う力を高める指導」へと研究を進めてきており、その成果も徐々に上がってきている。昨年度は、「伝え合う力」を育てるためには「聞くこと」と「話すこと」の双方向を強化することで、より理解も深まると考え、「聞く・話す」力の育成に重点をおいて研究を進めた。1年間研究を行った結果、生徒自身の達成感も高く、生徒の成長を感じられる場面も多くみられ、「伝え合う力」を焦点化したアプローチから学力向上を図ることができたと考える。そこで今年度は、この流れを受けて、「聞くこと」と「話すこと」に加え、それを織りなす「伝え合う力」の育成をさらに図る取り組みを計画し、本研究主題を設定した。具体的には、伝え合いの内容を簡単に類型化した「交流活動」を仕組んだ授業に関する研究である。また小集団での特性を生かした活動や、小集団の課題を補う活動についても研究していく。

II 研究内容

(1) 学級づくり・集団づくりについて

- ①よりよい学級づくり・集団づくりのために Q-U 検査の実施、K-13 法による分析、アタックシートの活用による取り組みを行う。
- ②視野を広げる活動として、他校との交流（勝沼中学校との交流、支部陸上大会への参加など）、一斉学活など他学年との交流および外部講師を招いた授業を行う。

(2) 授業実践について

- ①全教科に共通する「聞くこと・話すこと・交流活動」および各教科の特性に応じた「聞くこと・話すこと・交流活動」について指導主事や講師を招聘して理論研究を行う。またティーチャーズノートの活用を行う。
- ②一人一実践を行う。一人一実践や研究授業は、「聞くこと・話すこと・交流活動」の視点で授業を行い、その効果について検証する。

(3) 学習意欲・基礎学力の向上について

- ①朝学習の時間を新たに設置し、基礎学力の向上および補充的な学習を行う。
- ②テスト前学習会の充実及び一斉学活等で勉強の仕方について意見を交換する。

(4) 地域、保護者との連携

- ①授業参観（年4回）、学年部会を通じて、中学校の様子を家庭に知ってもらう。
- ②家庭学習の充実と習慣化を目的に、「学習の手引き」「家庭学習の手引き」「学力

UPのために」を活用を行う。

Ⅲ 具体的研究内容

(1) 学級づくり・集団づくりについて

4月と10月にQ・U検査の実施、K-13法による分析、アタックシートの活用による取り組みを行った。また視野を広げる活動として、7月と12月に勝沼中学校に訪問し、終日勝沼中学校の生徒と共に生活をした。加えて、全校体制での支部陸上大会への参加、わだつみ平和文庫へ訪問、JAXAに勤務していた宮川さんから話を聞く活動を行った。

(2) 授業実践について

8月12日に県教育委員会義務教育課の小林知子主査・指導主事、11月18日に総合教育センターの赤岡玲子主幹・研究主事を招聘して、理論研究を行った。そして、理論研究に基づいた一人一実践を行った。またティーチャーズノートを活用し、授業改善を行った。

11月11日(水) 1、2年体育「ソフトボール 守備と攻撃の基本」	小石澤教諭
11月17日(火) 2年国語「扇の的一『平家物語』から」	鮎澤教諭
11月17日(火) 2年理科「直列回路や並列回路の電圧の大きさ」	益田教諭
11月18日(水) 1年家庭「地域の食材を使用した調理」	石田教諭
11月19日(木) 1年数学「比例と反比例の利用」	筒井教諭
12月 1日(火) 1年社会「チョコレートから世界を考える」	前島教諭
12月 9日(水) 3年音楽「調や速度の変化を生かした表現を工夫しよう」	富田教諭
12月22日(火) 3年英語「Unit5 Electronic Dictionaries -For or Against」	奥田教諭

(3) 学習意欲・基礎学力の向上について

毎週火、木曜日の8:15-8:35に朝学習の時間を設定し、基礎学力の向上および補充的な学習を行った。またテスト前に学年を混合させたグループで学習会を開催したり、一斉学活を行い家庭学習の仕方について情報交換を行い、学習における自己の課題を明確にし、その解決の一助としたりした。

(4) 地域、保護者との連携について

授業参観(年4回)、学年部会、学校・学年・学級便りを通じて、中学校の様子を家庭に知ってもらうことができた。また「学習の手引き」「家庭学習の手引き」「学力UPのために」を活用することで家庭学習の強化を行うことができた。

Ⅳ 成果と課題

(1) 成果：今年度は、新たに視野を広げる活動や基礎学力を向上させるために朝学習の取り組みをはじめた。どれも生徒の反応は良く、教員も生徒の様子から手応えを感じる事ができた。また昨年度の聞くスキル・話すスキルに加え、交流活動を行うことにより、聞くスキルと話すスキルをつなげる活動を行うことができた。

(2) 課題：家庭学習は徐々に定着しはじめたが、まだまだ自発的に行うというところまで到達していないように感じる。来年度は更なる強化に努めたい。またティーチャーズノートの更なる活用を行う。今年度は、新たにはじめた取り組みが多かったので継続するとともに、よりよく改善していきたい。(研究主任 益田文教)